

# 園庭でのあそびと安全対策

## —教育実習生の事後調査より—

清水 幸子

キーワード 園庭遊び 危険予知 安全対策 ヒヤリ・ハット

### I はじめに

近年、幼稚園、保育所における事故が度々報じられている。厚生労働省発表の「保育施設における事故報告集計」によると、平成26年1月1日から平成26年12月31日までの1年間では事故報告件数は177件となっている。そのうち負傷は160件、死亡は17件である。場所別においては、園内室内が82件、園内室外が71件、園外が24件と報告されている。

2009年学校保健安全法において、危機管理マニュアルの作成、職員への周知、訓練の実施、また関係諸機関との連携を図り、安全確保のための措置を講ずることとなった。大きな災害や震災がいつどこで発生するかどうかわからない今日、これまで以上に保育者の危機管理能力や危機管理体制が重要と位置付けられている。そのため、保育者養成校においても、安全教育を進めていく必要性がある。

そこで、筆者の担当する保育内容演習（健康）では安全教育、事故防止を具体的な事例から学びを深める取り組みを始めている。その一つの取り組みとして、教育実習中の実際にあった事例をまとめ、各自の考えなども含め報告する中で、今後の安全教育につながる学びとして実施している。

本研究では、危機管理のうち、「ヒヤリ・ハット」という用語を使った取り組み、主に身近な保育中のけがや事故について焦点を絞る。学生の教育実習中のヒヤ

リ・ハット体験に基づいて事例を整理し、保育者養成校として今後どのような授業内容が必要かについて探ること、また年齢ごとの戸外での遊びや遊具での遊びを観察場面からまとめ、子どもたちの遊び方の特徴についても探ることを目的とする。

## II 方法

### 1. 対象者

本研究の研究対象は本学幼児教育学科2年生のうち、保育内容演習（健康）を履修し、幼稚園実習Ⅱを経験した著者のゼミに所属する学生11名である。

いずれも幼稚園教諭2種免許状、保育士資格取得を目指している学生である。

### 2. 調査

教育実習後に園庭遊びについての振り返りを行い、調査用紙（資料1）に記入し、各自がまとめる。その際、実習日誌やメモを参考にする。

また、各園庭での遊びをより具体的に表現するために、園庭を描写し、遊びの実際について特徴をまとめる。その際、各園から許可をいただき、園庭の全体的様子、遊具ごとに写真を撮り記録した媒体も使用することとした。

## 資料 1 調査用紙（配布資料：用紙サイズ A3）

### 保育内容演習（健康）学習資料\*

【学生名（A-B）】 【実習園 幼稚園（市町村名）】 【主に担当した年代（年少・年中・年長・縦割）】

※実習が終わった後でも、実習を振り返ってみよう。

①園でのそれぞれの年代での運動あそび（身体をつつとあそび）の特徴を整理してみよう。

②身体活動していたクラスや、自由時間でのいろいろな子どもたちが遊んでいた様子（経験したあそび）を思い出して遊んだあそびはどのようなあそびでしたか？

※クラスで主活動として行った身体活動のものは、**覚えておきたいあそび**を記入しよう。

※一緒に遊んだ（関わった）あそびには**★**を添えてわかるようにしよう。

◆自由時間【戸外では】>>>なるべく具体的に記入してみよう。例えば年少…遊具ぶらさがりごっこ、砂場でのお山づくり 年長…ドッジボール、○の角ごっこなど

年少	年中	年長
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]

◆自由時間【室内では】>>>なるべく具体的に記入してみよう。例えば年中…ハンカチ落とし、ケンケンパ 年長…跳び箱で1重あそびの練習など

年少	年中	年長
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]

◆【クラス活動 主活動では】>>>なるべく具体的に記入してみよう。例えば年中…リズム（あそび）体操、ボールでのパドパド、年長…マットあそびなど

年少	年中	年長
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]
・ [ ]	・ [ ]	・ [ ]

◆園にある固定遊具について書き出してください。（例えば…うんてい、すべり台、雲り輪もろ、ブランコ、台、ジャンプジム、鳥かごのような回廊のもの…）

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

◆今日の実習中に遊具や運動あそびなどで、「ヒヤリ」とした場面や実際に起こった事象の様子を思い出して記述してください。

（例えば…年少の男の子同士がブランコで遊んでいたところ、他のお友達がおびきブランコで話を打って怪我をした。）

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

【今日の実習で特に運動あそびの場面に気づいたことを自由に記入してください。】

### Ⅲ 結果

各実習園のクラスの構成、戸外遊びの状況、園庭遊具の設置状況、遊びの様子、ヒヤリ・ハット体験について整理した。

なお、11名の実習生のうち2名が同じ園に実習に行っている。そのため10の園について報告する。

#### 1. 各園のクラスの構成

10園の各クラス構成は、縦割クラス4園、年齢別クラス6園である。教育実習生が主に担当したクラスは、年少クラスを担当した学生は3名、年中クラスを担当した学生は2名、年長クラスを担当した学生はいなかった。その他、縦割クラスを担当した学生が最も多く5名であり、1名に関しては日替わりで年齢別クラスを担当した。

#### 2. 戸外遊びの状況

自由時間中の園庭での主な戸外遊びについて園ごとに年齢別にまとめた。

次の表1に示す。

表1 各園の主な戸外遊びについて

	年少児	年中児	年長児
IA	すべり台 ブランコ △砂場（ままごと）	のぼり棒 うんてい渡り 鬼ごっこ	○ドッチボール ○サッカー バナナ鬼
KA	△砂場（お山） すべり台	虫探し 氷鬼	○サッカー △砂場（ままごと）
II	氷鬼 ブランコ △砂場遊び	すべり台 ご飯作りごっこ 木の実拾い	— — —

OT	△砂場（ままごと）	地藏鬼	地藏鬼
	すべり台	うんてい	うんてい
	木登り	ブランコ	虫取り
KY	—	—	氷鬼
	—	—	鉄棒（ぶら下がり）
	—	—	△砂場（泥団子）
TM	△砂場（お山）	鬼ごっこ	鬼ごっこ
	登り棒	△砂場（泥団子）	△砂場（泥団子）
	△砂場（泥団子）	△砂場（お山）	
NM	△砂場（お山）	—	—
	△砂場（ままごと）	—	—
	水遊び	—	—
TY	△砂場（穴掘り）	△砂場（ケーキ作り）	鬼ごっこ
	△砂場（ケーキ作り）	鬼ごっこ	△砂場（泥団子）
	石集め	鉄棒（前回り）	鉄棒（逆上がり）
YM	ブランコ	太鼓橋	縄跳び
	ジャングルジム	縄跳び	ホッピング、竹馬
	△砂場遊び	鬼ごっこ	太鼓橋
HT	ブランコ	縄跳び	鬼ごっこ
	△砂場（お団子）	ブランコ	○サッカー
	△砂場（お家ごっこ）		△砂場（ダム作り）
NN	—	△砂場（川作り）	—
	—	△砂場（泥団子）	—
	—	水遊び、水鉄砲	—

■：固定遊具、△：砂場、○ボールを使った遊び、—：未回答

各園での戸外でのあそびは、園庭にある遊具や道具を使用して様々な遊びが展開されている。特に年少児、年中児に人気があるのは砂場での遊びで、色々な遊び方が具体的に報告されている。また鬼ごっこを中心とした園庭を駆け回る遊びは、年中児から徐々に増えている。年長児になるとより活発な活動が増え、ボールを使った遊びも実施されている。

### 3. 園庭遊具の設置状況

各園の特徴的な遊具や、代表的な遊具、園児たちが遊んでいた遊具を中心にまとめた。各園の園庭にある主な固定遊具について表2に示した。

表2 園庭に設置されている主な固定遊具

	固定遊具
IA	うんてい、鉄棒3台、すべり台、ブランコ2台、ジャングルジム、登り棒
KA	うんてい、すべり台、ジャングルジム、砂場、鳥かご、お家
II	うんてい、鉄棒、すべり台、ブランコ3台、ジャングルジム
OT	うんてい2台、鉄棒3台、ブランコ4台、ジャングルジム、登り棒6本
TM	砂場、登り棒1本、アスレチック(岩)、ターザンロープ4本、スパイダーネット、ロープ、トンネル
NM	うんてい、鉄棒5台、すべり台2台、ジャングルジム、登り棒、砂場
TY	うんてい2台、すべり台3台、ジャングルジム、登り棒2本、砂場、ネット、タイヤ
YM	太鼓橋、鉄棒6台、こぶ山(すべり台)、ブランコ3台、ジャングルジム、砂場、ジャングルアスレチック、ジャングルハングリッジ、ジャングルカー
HT	うんてい、すべり台2台、ブランコ2台、砂場
NN	うんてい、鉄棒、すべり台2台、ブランコ2台、ジャングルジム、砂場、ボルダリング、ロケット型遊具

各園の園庭では複数の遊具が設置されており、うんてい(太鼓橋含む)(9園)、すべり台(8園)は多くの園で設置されていた。また事故が多いとされているブランコに関しては6園のみの設置であった。なお、この調査では各園庭の遊具は名称不明の遊具もあり、また設置されている全ての遊具の報告となっていない。

#### 4. 遊びの様子

1) 園庭を描写し、遊びの実際について特徴をまとめた作品から、記述部分を抜き出し、下記の表3にまとめた。

表3 遊びについて〈遊具別〉

遊具	遊びの実際
ブランコ	○ 年少児、年中児に人気 ● 安全対策：ブランコの前行かないよう花壇をまわりに置く。 □ けんか発生（取り合いが要因）
砂場	○ 年少～年長児に人気（遊び：どろんこ遊び、お家ごっこ、お山作り、おままごと、泥だんご作り、お城作り、ケーキ作り、トンネル、※一人遊び、 <u>集団遊び両方一緒の場所で遊べる</u> ）
すべり台	○ 年少児に人気（遊び：テーマパークのアトラクションを想像して遊ぶ、鬼ごっこ） □ けんか発生（順番待ちが要因）
ジャングルジム	○ 年少児、年中児に人気（遊び：電車ごっこ） ◇ 年少児は登っても降りられない。
のぼり棒	○ 年少～年長児に人気（遊び：登ったり降りたり） ◇ 年長児は一番上まで登れるが、年少児では登りきれない。
うんてい、太鼓橋	○ 年中児、年長児に人気（遊び：ねずみ渡り）
鉄棒	○ 年中児に人気（遊び：逆上がり、前回り、サッカーのシュート練習、上に乗って座る、豚の丸焼き、ぶら下がり、こうもり） ● 安全対策：落下の際のクッション設置 ◎ 工夫：地面にタイヤが置いてあり、一人でも練習が可能
複合遊具（大型）	○ 年中児、年長児に人気（遊び：鬼ごっこ、探検ごっこ、飛行機ごっこ）
その他	○ 廃タイヤ・・・タイヤの下の虫探し ○ スパイダーネット・・・転がって遊ぶ ○ トンネル・・・休憩場所（お話）、かくれんぼ ○ ターザンロープ・・・ぶら下がって遊ぶ ○ お家・・・お家ごっこ、お料理屋さんごっこ ○ 広場・・・周りを走る、サッカー、鬼ごっこ、縄跳び

各固定遊具を使った遊びは、各年齢によって人気異なり、遊び方にも違いがあった。特に砂場での遊びは、「一人遊びも集団遊びも両方一緒の場所で遊べる」との記述があり、他の遊具との違いに着目した報告があった。また、のぼり棒では、「年少児では登りきれない」と発育発達が著しい幼児期の子どもたちを深く観察できている。

けんかが発生していた遊具は、ブランコとすべり台であり、安全対策では、ブランコと鉄棒について報告があった。

## 2) 園庭調べの実際の作品例 (抜粋)

各学生が実習園の園庭について、遊具とあそびの特徴についてまとめた。その制作した作品の一例である。

資料 1 園庭とあそびの特徴について





## 5. ヒヤリ・ハット体験の事例報告

### 1) ヒヤリ・ハット体験

調査用紙に記入された事例からヒヤリ・ハットの状況をまとめた。表4の通りである。

表4 ヒヤリ・ハットの状況

当事者	状況
年長児：年少児	砂遊びをしていて、年長児が年少児の顔に砂をかけてしまって、目に入ってしまった。
年少児	年少児がジャングルジムへ登り、落ちてしまうかもと心配になった。
年少児	年少児の男の子がブランコをしている子の前を通り、思っきり口をぶつけ、 <u>流血</u> 。
年少児	年少児の女の子が、木登りに挑戦していて落ちそうでヒヤヒヤした。
年長児	年長児がすべり台の上で鬼ごっこをしていた時、落ちそうになったこと。
年少児	岩に登っている年少児の男の子が落ちそうになったこと。
年長児	砂場で遊んでいるところを、年長児が通ろうとして子ども同士がぶつかりそうになったこと。
年齢記載なし	段差のたくさんある場所で走り回っている子どもがつかずいて転んでしまった。
年少児	年少児が飛行機のようなハンドルのついた少し高めの遊具の上で体を外に乗り出していた。
年少児	年少児が太鼓橋をしていて、ぶら下がっているところ、急に怖くなって手を離して高いところから落ちてしまった。
年齢記載なし	竹馬をしているところ、バランスを崩し、地面に足がついた瞬間、竹馬が跳ね上がってしまい、頭を打って <u>怪我</u> をした。
年齢記載なし	ブランコに乗っている子どもの近くに近寄って、当たりそうになっていた。
年齢記載なし	砂場遊びの時に、友達の顔に砂をかけた。
年齢記載なし	鉄棒で逆上りの補助をしている時に、子どもが手を離し、落ちそうになった。
年齢記載なし	水鬼で子ども同士がぶつかり <u>怪我</u> をした。

全ての学生から報告があり、実際に怪我をした事例も含まれていた。中でも年少児が関わったものが多かった。ブランコがぶつかり口をぶつけたケースや、氷鬼での子ども同士の衝突など、大きな怪我に至らなかった事例ではあるが、安全対策の工夫により妨げたことも推測できる。特に鬼ごっこによる衝突は、保育者が工夫し、配慮することでリスクの軽減につながるとされている。著者の専門とする体育授業でも同じことが言える。人数とスペースの関係、異年齢での活動における子どもたちの体格の差、ルールや約束事をどのように設定していくかが重要な要素である。

## 2) ヒヤリ・ハット体験（遊具別）

遊具別にヒヤリ・ハットの状況をまとめた。表5の通りである。

表5 ヒヤリ・ハットの状況（遊具別）

遊 具	状 況
ブランコ	ブランコに近寄る行為
砂場	砂をかける行為、ぶつかりそうな行為
すべり台	高いところでの鬼ごっこによる転落しそうな行為
ジャングルジム	転落、落下しそうな行為
のぼり棒	(木登りも含む) 落下しそうな行為
うんてい、太鼓橋	手を離して落下する行為
広場	つまずき、転倒
その他	遊び道具（竹馬）が頭にあたる

大きな事故につながる行為の一つである、すべり台での鬼ごっこや、ジャングルジム、のぼり棒、うんていでの転落や落下行為または落下しそうな行為が実際に報告されている。

日本保育協会（2017）は高所からの転落は大きなリスクの一つとしており、子どもが単独で使うことが危険と考えられる遊具については、単独で使わない

ルールを作成し、使う際にも保育者が必ずサポートするとともに、万が一の転落に備えて、クッションになるマットを下に敷くなどの対策が必要と提言している。また遊具での事故は、事前の安全対策から防げるものと、実際の保育者のサポートによる支援策でリスクを軽減させることの重要性も示されている。

このことから、今回のヒヤリ・ハットの状況報告において、例えばブランコに近寄る行為をどのような工夫で未然に防いでいくことが必要なのか、早急に検討し安全対策を実施することが必要と言えよう。

## 6. 運動あそびの場面からの気づき

調査用紙にて、今回の実習で特に運動あそび場面から気づいたことを自由に記入する部分の報告をまとめた。その一例について下記に記す。

- 年長児は、どんなことでも挑戦し、友達に対抗しようと無理にやろうとして、怪我をしそうな場面が多く、しっかりと見ていないと危ないと感じた。
- 子どもは思ったよりもできてしまうことが多く、目を離さないようにすべきだと思った。
- 園庭遊びでは全部の遊具で遊ぼうとしていた。
- 順番を守らないで遊んでいたところもあった。
- 遊具が2つしかない園庭だったので、もう少し遊具が多い方が良かった。
- 年少児は真似をして遊んでいる。
- 年中児は鬼ごっこでは追いかけるよりも、逃げる方が好き。
- 子どもたちはそれぞれできることに差があるのでフォローが大切だと感じた。
- 年長児は室内より戸外で遊ぶ方が好きで、鬼ごっこをやっている子どもを多く見かけた。

この記述から、運動あそびについて、年齢ごとの遊び方や遊びの特徴についてよく観察されており、子どもたちと直接関わることで、実習生の立場で感じ

たことが報告できている。実習中は全体を見渡すことは難しい状況ではあるが、それぞれが見える範囲で、安全面に対する観察力は最低限必要であり、これまでの実習生自身の経験から予測していくしかない。そのため、まずは観察からどのように感じ、気づき、対応していくのか、行動していくのかを瞬時に判断していくことが重要である。特に園庭遊びでは「全部の遊具で遊ぼうとしていた」という報告からも、子どもたちの遊びの展開の早さに対応する能力も必要である。一緒に遊ぶということは、安全に配慮して一緒に遊ぶことである。実習生であっても、可能な限り安全に遊ぶためにどのようなことが今必要なかを常に考えながら、支援していくこと。そのための方法として、授業において今回の事例報告を活用し、危険を予知できる能力や判断力を養うことができる内容の取り扱いが必要である。

#### IV 考察

本研究では、教育実習中の身体を動かす活動を中心に、それぞれの実習園での主な活動や、自由あそびの時間、朝の活動、夕方の活動など、それぞれの時間帯別に活動を振り返り、その中から、自由あそびの時間での戸外遊びについて報告をまとめた。実際の戸外ではどのような遊びが展開されていたか、またどのような固定遊具が設置されていたのか等も整理した。中でも実習中に遭遇した「ヒヤリ・ハット」体験に関しては、事例報告として記述式で詳しく状況を記録した。この調査用紙をまとめるにあたっては、2週間の実習中、実習生が危ないと感じた場面、実際に怪我をしてしまった場面など、全ての実習生から報告があった。

厚生労働省発表の「保育施設における事故報告」では、事故発生の事例と留意すべき点として次のように述べられている。①遊具等から転落：大型遊具とその周辺の点検、遊び方やそのルールを丁寧に伝え、守れるようにすることが必要。②子ども同士がぶつかる：子どもの視線・動線を考慮した環境設定や子

ども一人一人の居場所 他の保育士等の位置を把握することが必要。③机や棚の角に体をぶつける：必要に応じてカード等による工夫が必要と3つの安全対策について報告している。今回の事例ではヒヤリ・ハット体験において年少児が関係する報告が7件ともっとも多かった。これは幼稚園施設整備指針(2014)や幼稚園教育要領解説(2008)において、戸外あそびでの注意点として、3歳児は大人が予期せぬ行動をすることも多く、環境整備の必要性について記載されていることから特に注意が必要な年齢と言える。また日本幼児体育学会(2016)では運動遊具の安全管理・安全指導についてまとめられている幼児体育指導員養成テキストでは、自由あそび時の遊具の使用について、約束事として10項目を上げており、子どもたちに関わる大人やリーダーが子どもたちに的確に伝えられるよう安全指導の方法について示している。

本論では、それぞれの実習園で実習生が観察した限られた場面から報告をまとめたものであり、日々の園活動では今回の報告の何倍も多い危ない場面があると推測される。このことから、今回は事後調査となってしまったが、実習前の事前指導において、園内での事故についての事例を示し、実習生として可能な限り、子どもの安全を守るための教育を含めることや、実習中に起きる「ヒヤリ・ハット体験」から経験を重ね、事故防止に関する見解を深め、さらに今後の危機管理能力の向上につながる実習となるよう指導して行く必要があると考える。また、実習生は2週間の実習で、園児との関わり、中でも遊びを通じた活動が多く含まれている。日々展開される遊び方の変化や、年齢ごとの楽しみ方を深く観察することで、子どもの成長を感じることができ、子どもたちの発達に応じた支援方法が理解できるようになる。そして、子どもたちの行動が予測できるようになれば、危険予知、事故を未然に防ぐための言葉がけや支援の方法、タイミングがより明確にわかり、行動に移すことができる。

この実習での経験こそが保育者としての基盤となり、より一層積み上げて行くことで、園内での事故防止に大きくつながっていくであろう。

## V 用語について

ヒヤリ・ハットとは、ハーバート・ウィリアム・ハインリッヒ (Herbert William Heinrich ,1886-1962 , 米国) の、「1 件の重い傷害を伴う災害の背後には、29 の軽傷害があり、さらにその背後には 300 件の傷害を伴わない災害が発生している」という「ハインリッヒの法則」から導き出された概念である。ヒヤリ・ハットは、重大な事故にはならなかったが、もう少しで重大事故になる可能性があったという事例発見のことで、ヒヤッとして、ハットとする体験のことを表している。重大事故の裏には、このような体験が多く起こっていた可能性があり、それらの事例を沢山集め、認識を共有することによって重大事故の予防につながるとされており、医療分野や、自動車（交通事故）関連で多く用いられている用語である。

### 謝辞

本研究においてご協力いただきました本学学生ならびにゼミ生に心から感謝申し上げます。

<引用参考文献>

厚生労働省, (2015), 保育施設における事故報告集計,  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000072858.html>

< 2017/02/23 閲覧 >

伊藤知之・大野木裕明・石川昭義, (2012), 保育実習生のヒヤリハット認知を高める教材開発研究, 仁愛大学研究紀要, 人間生活学部篇 4, 39-52

文部科学省, (2012), 学校保健安全法 平成 27 年最終改正

文部科学省, (2014), 幼稚園施設整備指針 第 4 章 園庭計画 24-25

文部科学省, (2008), 幼稚園教育要領解説, フレーベル館

前橋明, (2016), 運動遊具の安全管理・安全指導スペシャリスト, 大学教育出版